

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		令和 7 年度 第 2 回川西市障がい者自立支援協議会		
開催日時		令和 7 年 12 月 15 日 (月) 14 時 ~ 15 時 50 分		
開催場所		キセラ川西プラザ 福祉棟 2 階 共用会議室 ABCD		
出席者	委 員 (敬称略)	高田委員、篠木委員、松澤委員、澤山委員、渡邊委員、熊手委員、 政野委員、森田委員、川瀬委員、松山委員、高岡委員、 鈴木隆仁委員、福井委員、斎藤委員、薄波委員、北田委員		
	その他 (敬称略)	(欠席) 佃委員、神谷委員、横道委員、三好委員、鈴木学委員、		
	事務局	川西市 障害福祉課 尾屋、 神谷主任相談支援専門員、 川西市社会福祉協議会 楫		
傍聴の可否		☒ 可 ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会 議 次 第		1 開会 2 常任委員・構成員の紹介 3 会長・副会長の選任 4 議事・報告 (1) 自立支援協議会、運営会議の主旨について (2) 各部会からの報告 こども支援部会 相談支援部会 精神障がい者支援部会 (3) 日中サービス支援型共同生活援助評価会の報告 (4) その他 5 閉会		
会 議 結 果		別紙のとおり		

審 議 経 過

担当課	1【開会挨拶】 障害福祉課長より、委員への就任への感謝と平素の協力への謝意が述べられた。 障害の多様化、本人・保護者の高齢化といった課題がある中、令和6年策定の「障害者プラン2029」の推進と、来年度の障害者福祉計画策定の重要性が説明された。 グループホームの総量規制など、国における報酬改定の動向も踏まえ、委員各位の経験と専門知識を活かし、障害児・障害者の福祉増進に貢献してほしい旨が伝えられた。 自立支援協議会が良質な交流と情報共有の場となるよう、運営していく方針が示された。 2【常任委員・構成員の紹介】 任期満了後初の会議であるため、常任委員構成員が紹介され、各自一言ずつ挨拶を行った。 3【会長および副会長の選任】 自立支援協議会設置要綱第4条に基づき、会長および副会長の互選が行われた。 事務局の推薦により、会長に川西市社会福祉協議会の高田氏、副会長にハピネス川西相談支援事業所の熊手氏が選任された。 会長より就任挨拶があり、机上論だけではなく、活発なアイデアが出る会議運営への意欲が示された。
事務局	4(1)【自立支援協議会運営の趣旨について(事務局説明)】 事務局より、資料1-2「自立支援協議会事務局(案)」に基づき、協議会の位置づけと重要性について説明があった。 人口減少と財源の制約が進む中、行政と民間が連携し、限られた資源を有効活用して課題解決に知恵を出し合う場として、協議会の役割が増している。 総合支援法の改正(守秘義務明記)により、個人情報共有の壁が取り除かれ、共通課題に対する官民一体での取り組みが促進される。 協議会の主な6つの機能(情報機能、調整機能、社会資源の開発・改善、

審 議 経 過

	人材確保・育成、権利擁護、評価機能）が説明され、地域における個別の課題を可視化・共有し、多機関連携で解決していくことの重要性が強調された。 川西市においては、全体会議の下に運営会議と専門部会（相談支援部会、こども支援部会、精神障害者支援部会）が設置され、障害福祉課と基幹相談支援センターが事務局として運営を担っていることが説明された。
会長	資料 1-2「自立支援協議会事務局（案）」は確定か質問
事務局	前回の全体会議で承認を得ており、確定であることが伝えられた。
委員	4（2）【各部会からの報告】 こども支援部会からの報告 強度行動障害、医療的ケア児支援の具体化を重点課題として取り組んでいる。 医療的ケア児の実態把握調査と強度行動障害に関する研修会を実施した。
委員	強度行動障害や医療的ケア児の増加、支援体制強化の急務が提起された。
委員	川西市内での行動障害系利用者の増加と、対応できるグループホームの少なさ、人材不足の深刻な現状が報告された。
委員	社会資源が利用者を「選択」する傾向や、本質的な支援に取り組む組織の減少への懸念が表明された。
委員	長年の支援経験から、早期からの継続的な支援の重要性や、親亡き後問題が未だ解決されていないこと、文科省と厚労省間の連携不足について指摘があり、行政の強いイニシアチブが求められた。
委員	相談支援部会からの報告 毎月第 3 金曜日に部会を開催し、事例検討を通じて個別課題から地域共通課題の明確化を継続している（全 6 回シリーズ中 3 回終了）。 計画相談支援の加算取得に向けた勉強会を実施し、事業所の安定経営と質の高い支援の両立を目指している。

審 議 経 過

	就労選択支援等の新たなサービスに関する勉強会や、各事業所の受け入れ状況・相談員の困り事共有を行い、連携強化と相談員の孤立防止を図っている。 共通課題として、サービス・地域資源の不足が指摘されており、解決に向けた議論の必要性が強調された。
委員	地域との繋がりが困難な当事者や家族へのアプローチの難しさが共有された。
委員	精神障害者支援部会からの報告 「発達障害者について」のセミナーを2月20日（金）午後に消防署大会議室で開催予定である。 ピアサポートについての勉強会を実施し、当事者同士の共感・共有の重要性を確認。川西市内でのピアサポートの普及と場作りについて今後協議する。 長期入院者に関して、生活保護受給者は1名だが、全体としては高齢者を中心に長期入院者が増加傾向にあることが報告された。 入退院を繰り返す方への支援の困難さが課題として挙げられ、来年度は定例開催で困りケースの事例検討を行い、必要な社会資源や共通の課題を抽出していく方針が示された。
委員	発達障害の表面化により特別支援学校の生徒数が増加し、教室やバスの確保が困難になっている状況が報告された。
委員	就労において身体障害者は減少傾向だが、精神障害者は増加傾向にあり、病状の波により離職が多い傾向がある。一方、発達障害者は真面目な勤務態度から企業ニーズが増しているとの現状が報告された。
委員	65歳問題（障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行）において、本人の自己決定に基づく適切なサービス利用継続の重要性が指摘された。
委員	就学前健診での発達障害疑いへの対応や、親の就労増加に伴い、親子が共に支援を受ける場や機会が減少している実情が報告された。
委員	4(3)【サービス支援型共同生活援助評価会の報告】

審 議 経 過

	今年度の評価会は、評価委員が事前提出されたチェックシートをもとに議論する形式で実施された旨が報告された。 最も多く出た意見は「チェックシートの様式見直しが必要」というものであった。評価内容の不明確さ、地域連携の希薄さ、過去の改善指摘事項の蓄積・引き継ぎの不十分さが課題として挙げられた。 今後は「努めます」といった抽象的な回答ではなく、具体的な取り組み内容を記載するよう様式を改善し、未実施であれば未実施と明確に記すべきであるとされた。 評価を実施した３事業所に対して、虐待防止等のマニュアル提出を依頼した。一部事業所からは現地での提示は可能と回答を得た。今後、評価会を基に各事業所に訪問し、質問事項に関する具体的な内容の回答を求める。
委員	グループホームの評価において、閉鎖的な環境になりがちなことから、外部との接触や地域との繋がりを具体的に示すことの重要性が強調された。
担当課	４（４）【その他】 来年１月２７日に阪神北県民局と共催で就労に関するシンポジウムが開催される旨の案内があった。
会長	会長より、人が豊かに安心した生活を送る上で、衣食住だけでなく、「医療（Health）」「職業/日中の居場所/教育（Work/Education）」「居場所（Community）」の医職住がキーワードになるという問題提起があった。
委員	意見を出し合うことが大切という意向が示された。
委員	過去の経験から、個々の社会資源が持つ役割や強みを尊重し、それらが適切に連携することの重要性が再認識された旨のコメントがあった。連携や統一性の不足が利用者にとって不利益となることへの懸念も示された。 以上